

2006年4月17日

# い し ず え

全損保日動外勤支部首都分会 教宣部ニュース 06 - 5

3月31日東京都労働委員会は東京海上日動社に対して実効確保の勧告を行いました。その瞬間、重苦しい雰囲気だった部屋に暖かい風が吹き抜けたような気がしました。

しかし会社は勧告を無視したままで、かたくなな姿勢を崩そうとはしていません。理不尽な主張や強引な要求をする会社にとって、日動外勤支部の極々まっとうな主張や行動は邪魔なのでしょう。この時期に東京都労働委員会から断罪されることは予想外だったという見込み違いはあるにせよ、正当な要求に屈することを屈辱だと思っているのかもしれませんが。

会社の主張は4月から始まった制度を巡る裁判でも、制度廃止は経営権の問題であり従業員の労働条件は関係無いと、我々の主張と真っ向から対立しています。しかし東京都労働委員会でも我々の主張の正しさが立証されました。東海経営のプライドが、自らの非を認めることを拒んでいるのでしょうか。しかしこのままこの問題に対する認識を改めることを拒み続ければ、さらに墓穴を掘り続けることは明らかです。もともと株主に説明できないとしてきた制度廃止ですが、東京都労働委員会の認識を甘く見ていた対応や、制度廃止にばかりに目が行った結果、CSRを社是として標榜する企業自らがコンプラ違反を犯してしまうという自己矛盾をどう株主に説明するのでしょうか。公正な第三者による断罪に従う意思の見えないほど自浄作用を失ったこの会社に、グローバルコンパクトに参加する資格があるのでしょうか。

会社の主張は今回の東京都労働委員会の勧告に対する反論（尊重すると言いながら従わない）や、みなし労働における時間管理、弁護士団の意見書への反論（例えば担当代理店制度）など不正確な認識（わざとも含む）に基づく強弁が多く認められ、都合が悪くなるとクルクル変わるなど、その場しのぎの言い訳を繰り返しているようにしか見えません。今後さらに第三者機関によって自らに不利な判断が出た場合には今度はなんと強弁するのでしょうか。制度廃止の通告から始まったたたかいは半年を経過しました。運動をさらに盛り上げて、会社をさらに追い込んでいきましょう。